

名古屋学芸大学 別科助産学専攻

2022年度

シ ラ バ ス



領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期
助産学基礎	助産学概論	渡會 涼子	1 (15)	前期
教科のねらい	助産師として必要な態度・知識・技術を習得する上で基礎となる理念や様々な知識を獲得し、助産師の役割や自己の課題を明らかにする。			
授業科目の到達目標	1 現在に至る助産師の具体的活動やケアの対象・目的・方法から「助産」の意味が考えられる。 2 社会の母子保健状況から、助産師へのニーズと助産師としての自己の課題を探求できる。			
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる。 DP3：保健医療チームの一員として、他職種と連携・協働し、助産師としての役割を遂行できる。 DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる。 DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる。			
授 業 内 容			科目担当	備考
第1回	助産とは 助産師とは 1) 助産師の専門性について 2) 助産師の業務 助産所業務ガイドライン・助産師業務用覧	渡會涼子	関連科目  母子と家族の心理 助産管理学 生殖医療・遺伝学	
第2回	助産師を取り巻く法律	渡會涼子		
第3回	日本と世界の母子保健の動向	渡會涼子		
第4回	助産の歴史と文化	渡會涼子		
第5回	助産師と倫理 1) 職業倫理助産活動において求められる命に対する倫理	渡會涼子		
第6回	女性の健康と人権 リプロダクティブヘルス・ライツ	渡會涼子		
第7回	助産師と教育	渡會涼子		
第8回	単位認定試験 まとめ	渡會涼子		
授業の進め方	講義及びグループ討議、個人ワーク、発表			
評価の方法	筆記試験70% レポート30% で評価する。			
自己学習の内容/時間	助産学を学ぶ上での入門となる。各自講義に関する学びを深めるために、問題意識を持った自己学習を重ねることで、自らの学びとする努力をすること (90分)			
テキスト	我部山キヨ子編 助産学講座1 助産学概論 医学書院			
参考図書	見藤隆子他 看護職者のための政策課程入門第2版 日本看護協会出版会 2017 高田利広他編：助産師業務要覧、日本看護協会出版会 母子保健研究会編集：わが国の母子保健 厚生労働省児童家庭局母子保健課：母子保健の主たる統計 看護行政研究会監修：看護六法、新日本法規出版会			

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期		
助産学基礎	周産期医学Ⅰ（産科領域）	菅沼 信彦	1（15）	前期		
教科のねらい	周産期の領域における様々な病態生理・治療について学び、妊娠、分娩、産褥期にある対象の正常と異常について学ぶと共に合併症や予防の対応について理解を深める。					
授業科目の到達目標	1 母児の健康問題に影響を与える因子について理解できる。 2 妊娠・分娩・産褥に起こりやすい異常と対応の方法について理解できる。					
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる。					
授 業 内 容			科目担当	備考		
第1回	異常妊娠・合併症妊娠 1) 医学的にみたハイリスク妊娠 2) 異常妊娠— 前期破水・妊娠高血圧症候群・羊水量の異常（過多・過少）FGR、血液型不適合妊娠、異所性妊娠 母子感染症 3) 合併症妊娠— 心疾患、糸球体腎炎、SLE、気管支喘息、糖尿病 甲状腺合併妊娠	菅沼信彦	菅沼信彦	関連科目  助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学Ⅲ		
第2回・第3回	異常分娩 1) 回旋異常の分娩機転 2) 分娩誘発・促進の方法 3) VBAC 4) 帝王切開術 5) 骨盤位分娩 6) 吸引・鉗子分娩 7) 異常出血とその対応、産科ショック、DIC 8) 産科麻酔（局所麻酔も含む） 9) 胎児機能不全	菅沼信彦				
第4回・第5回	異常産褥 1) 産褥期の異常出血と対応 2) 産褥感染症の原因と対応 3) 血栓・塞栓症 4) 産褥精神障害 5) 尿失禁 乳腺症	菅沼信彦				
第6回	1) 妊娠・分娩・産褥・授乳期と薬剤 2) 母体－胎児間の免疫、主な母子感染	菅沼信彦				
第7回	思春期、成人期、更年期、老年期に起こりやすい異常（ホルモン治療）	菅沼信彦				
第8回	単位認定試験 まとめ	菅沼信彦				
授業の進め方	講義					
評価の方法	筆記試験100%で評価する					
自己学習の内容/時間	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する（90分）					
テキスト	我部山キヨ子編 助産学講座2 基礎助産学〔2〕 母子の基礎科学、医学書院 我部山キヨ子編 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期、医学書院 我部山キヨ子編 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期、医学書院					
参考図書	産婦人科診療ガイドライン 産科編2017、日本産婦人科学会 上妻志郎 武谷雄二 プリンシプル産婦人科学1・2、メジカルビュー社 他					

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期		
助産学基礎	生殖医療・遺伝学	菅沼 信彦・若林 加菜子	1 (15)	前期		
教科のねらい	遺伝医学や不妊治療の現状と課題について学び、出生前診断・生命倫理を基盤とした対象者へのケアの必要性や対応を理解する。					
授業科目の到達目標	1 生殖遺伝学（遺伝医学）の基礎知識を理解する。 2 遺伝カウンセリングの概要について理解する。 3 助産師として、人（遺伝子）の多様性をどうとらえていくか考察できる。					
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる。 DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる。					
	授 業 内 容	科目担当	備考			
第1回	生殖医療の基礎 1) 生殖内分泌の基礎	菅沼信彦	関連科目  助産学概論 周産期医学Ⅰ 周産期医学Ⅱ 母子と家族の心理			
第2回	一般不妊治療 1) 概略 2) 検査 3) 排卵誘発	菅沼信彦				
第3回・第4回	高度生殖医療 1) 概 略 2) 体外受精 3) 顕微授精 4) 凍結保存と融解移植	菅沼信彦				
第5回	生殖遺伝学（遺伝医学） 1) 染色体（構造、機能、分裂のメカニズム） 2) 遺伝子（遺伝子の構造と機能、エピジェネティック制御）	菅沼信彦				
第6回・第7回	不妊認定看護師の立場から 不育・不妊患者の背景や心理 生殖看護の実際 生殖倫理 出生前診断の情報提供 出生前診断後の意志決定支援	若林加菜子				
第8回	単位認定試験 まとめ	菅沼信彦				
授業の進め方	講義					
評価の方法	筆記試験100%で評価する。					
自己学習の内容/時間	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する（90分）疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる（90分）					
テキスト	我部山キヨ子編 助産学講座2、基礎助産学（2）、母子の基礎科学：医学書院					
参考図書	荒木重雄 浜崎京子編著 不妊治療ガイドランス 第3版 医学書院 2003 ほか印刷教材あり 遺伝カウンセラーとは異なる出生前検査における助産師の役割、助産雑誌、2016.3 医学書院					

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期
助産学基礎	周産期医学Ⅱ（小児科領域）	都築 一夫	1（15）	前期
教科のねらい	周産期小児科領域のケアを行っていくうえで必要な病態生理・治療について学び、疾患に伴う合併症や予防の対応について理解を深める。			
授業科目の到達目標	1 遺伝と遺伝に起因する疾患について理解できる。 2 乳幼児の成長発達について理解できる。 3 新生児の異常について理解できる。			
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる。			
	授 業 内 容	科目担当	備考	
第1回	新生児の適応 1) 呼吸の適応 2) 循環の適応 3) 血液の変化 4) 新生児黄疸 5) 栄養・体液バランスの適応	都築一夫		
第2回	新生児の分類と診査 1) 新生児の分類 2) 新生児の診査 3) 分娩外傷 4) 新生児仮死と蘇生法 5) 呼吸障害の後遺症	都築一夫		
第3回	ハイリスク児 1) 胎児発育不全 2) RDS、新生児無呼吸 3) 新生児の心疾患 4) 新生児の消化器疾患 5) 新生児けいれん 6) 新生児外科疾患	都築一夫		
第4回	母子と免疫・感染 1) 免疫とは 2) 胎児の免疫と移行抗体 3) 母子間血液型不適合妊娠 4) 抗体検査の種類と意義 5) 母子感染	都築一夫		
第5回	新生児感染症、乳幼児期の予防接種 1) 垂直感染と水平感染 2) 新生児感染症の特徴 3) 感染症の診断法 4) 抗体検査の種類と意義 5) 乳幼児の定期接種	都築一夫		
第6回	先天異常と遺伝性疾患 1) 先天異常の分類 2) 遺伝子、DNA、染色体 3) 染色体異常 4) 遺伝性疾患と遺伝形式 5) 出生前診断 6) 新生児マススクリーニング	都築一夫		
第7回	時間経過でみた新生児医療 1) 生直後～生後6時間 2) 生後6～24時間 3) 生後24時間～48時間 4) 生後2～4日 5) 生後4～1週 6) 生後1週以降	都築一夫		
第8回	単位認定試験 まとめ	都築一夫		
授業の進め方	講義			
評価の方法	筆記試験90%・レポート10%で評価する。			
自己学習の内容/時間	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する（90分）			
テキスト	我部山キヨ子編 助産学講座2 基礎助産学〔2〕 母子の基礎科学、医学書院 我部山キヨ子編 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕 新生児期・乳児期、医学書院 他 江藤宏美：助産師基礎教育テキスト 第6版 産褥期のケア 新生児・乳幼児期のケア 日本看護協会 遠藤俊子：助産師基礎教育テキスト 第7版 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア 日本看護協会			
参考図書	仁志田博司、新生児学入門. 第5版、.医学書院			

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期
助産学基礎	母子と家族の心理	金子 一史	1 (15)	前期
教科のねらい	家族関係形成過程、母親役割の移行期の諸課題について現代的な社会状況の中で概観するとともに、様々な課題とその対応の現状について学ぶ。			
授業科目の到達目標	周産期にある男女および親子の心理的な特徴を学び、家族看護の視点から援助の在り方を理解する。			
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる。 DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる。			
授 業 内 容			科目担当	備考
第1回	女性のライフサイクルと女性のメンタルヘルス	金子一史	関連科目	
第2回	親子の愛着形成について	金子一史	助産診断・技術学Ⅰ	
第3回	児童虐待について	金子一史	助産診断・技術学Ⅱ	
第4回	低出生体重児を出産した母親の心理	金子一史	助産診断・技術学Ⅲ	
第5回	不妊治療を受けた母親の心理	金子一史		
第6回	母子関係及び父子関係の発達	金子一史		
第7回	周産期におけるメンタルヘルスのアセスメント	金子一史		
第8回	単位認定試験 まとめ	金子一史		
授業の進め方	講義			
評価の方法	授業の際に実施するレポート10%、最終試験90%で評価する。			
自己学習の内容/時間	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(90分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)			
テキスト	我部山キヨ子編：助産学講座4 基礎助産学〔4〕母子の心理社会学、医学書院。 我部山キヨ子編：助産学講座3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学、医学書院。			
参考図書	カミングス他著、菅原ますみ監訳：発達精神病理学 子どもの精神病理の発達と家族関係、ミネルボア書房、2006。 竹内正人編著：赤ちゃんの死を前にして、中央法規、2014。 山崎あけみ、原礼子：家族看護学 改定2版、南江堂、2015。 新道幸恵、和田サヨ子編：母性の心理的側面と看護ケア、医学書院。			

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期
助産診断・技術学	助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）	鈴木 明日香・藤木 理代	2 (30)	前期
教科のねらい	妊娠期の女性および家族の特性を理解し、妊娠期の助産診断に導く過程を学び、診断を導くために必要な妊娠期の技術・援助について学ぶ。			
授業科目の到達目標	1 妊婦・胎児の健康状態の診断に必要な観察内容と方法が理解できる 2 健康な妊娠生活への支援に必要な知識・方法が理解できる 3 親役割獲得・家族役割調整への支援、必要な知識・方法が理解できる			
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる。 DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる。			
授 業 内 容			科目担当	備考
第1回	妊娠期の助産診断	鈴木明日香	関連科目	
第2回	1) 妊娠成立の診断	鈴木明日香	周産期医学Ⅰ 周産期医学Ⅱ 母子と家族の心理 助産診断・技術演習Ⅰ 母子と家族の心理	
第3回	2) 妊娠時期の診断	鈴木明日香		
第4回	3) 妊婦健康診査	鈴木明日香		
第5回	4) 母体の健康状態に関する診断	鈴木明日香		
第6回	5) 胎児の健康状態に関する診断	鈴木明日香		
第7回	6) 妊婦の健康生活に関する診断	鈴木明日香		
第8回	7) マイナートラブルの診断と対処	鈴木明日香		
第9回	8) 診察技術：妊娠期のイグザミネーション他 (レオポルド触診法・胎児心音聴取、腹囲・子宮底測定他)	鈴木明日香		
第10回	妊娠期のケア	鈴木明日香		
第11回	1) 母体の健康状態・健康生活に関するケア (1) 食事行動にかかわるケア (2) 排泄行動にかかわるケア (3) 睡眠・休息行動にかかわるケア (4) 動作・運動にかかわるケア (5) 清潔行動にかかわるケア	鈴木明日香		
第12回	2) 心理・社会的側面に関するケア (1) 親役割の獲得・家族役割調整 (2) 社会資源の活用・就労に伴う支援	鈴木明日香		
第13回・第14回	妊娠期のケアの内容をふまえ、グループワークで個に応じた保健指導内容を考える	鈴木明日香		
第15回	正常からの逸脱に対する助産診断とケア	鈴木明日香		
第16回	1) ハイリスク妊娠 (1) 妊娠継続期間の逸脱 ① 流産・早産 ② 過期妊娠	鈴木明日香		
第17回	(2) 妊娠に伴う身体的適応からの逸脱 ① 妊娠悪阻 ② 貧血 ③ 妊娠高血圧症候群 ④ 糖尿病	鈴木明日香		
第18回	(3) 胎児発育の逸脱 ① 多胎 ② FGR	鈴木明日香		
第19回	(4) 胎児付属物の逸脱 ① 前置胎盤 ② 羊水量の異常	鈴木明日香		
第20回・第21回	妊産婦の栄養指導の実際	藤木理代		
第22回	単位認定試験 まとめ	鈴木明日香		
授業の進め方	講義 グループワーク（保健指導内容の検討と発表）			
評価の方法	筆記試験90%・レポート10%で評価する。			
自己学習の内容/時間	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する（90分）。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる（90分）。			
テキスト	我部山キヨ子編：助産学講座3・6、医学書院。 森恵美：助産師基礎教育テキスト第4巻 妊娠期の診断とケア、日本看護協会。 遠藤俊子：助産師教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア、日本看護協会。 北川真理子、内山和美編集：今日の助産 改訂第4版、南江堂。 平澤美恵子：写真でわかる助産技術アドバンス、インターメディカ。 食品80Kcalブック／毎日の食事カロリーガイドブック、女子栄養大学出版部。 吉澤豊子、鈴木幸子：マタニティアセスメントガイド、真興交易。 毎日の食事のカロリーガイド3版、女子栄養大学出版部。			
参考図書	日本産婦人科学会：産婦人科診療ガイドライン2020 厚生労働科研研究：研究班 快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン2013 上妻志郎、武谷雄二：プリンシプル産科婦人科学2 産科編 第3版 我部山キヨ子、大石時子編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション第2版、医学書院。 日本助産診断・実践研究会編：実践マタニティ診断第4版、医学書院。 病気がみえる10 産科 第4版、Medic Media。 我部山キヨ子編：臨床助産師必携、医学書院。			

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期
助産診断・ 技術学	助産診断・技術演習Ⅰ	鈴木 明日香・渡會 涼子・ 糟谷 ちひろ・永友 さゆり・ 田中 花菜・中西 豊・白木 和恵	1 (30)	前期
教科のねらい	助産計画、指導案を基に個別の保健指導を実施すると共に、妊婦や夫婦を対象とした集団・個別保健指導案を作成する。さらに、妊娠期の超音波診断、胎児診断についての理解を図る。			
授業科目の 到達目標	1 事例展開に基づき、妊娠確定期から後期までの助産診断ができる 2 妊娠期に必要なケアが実践できる 3 保健指導計画を立案し実施、評価できる 4 妊娠各期の超音波診断方法の実際が理解できる			
授業科目の 到達目標 〔ディプロマ ポリシー【DP】 との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる。 DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる。 DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる。			
	授 業 内 容	科目担当	備考	
第1回	演習方法のオリエンテーション・事例設定について	鈴木明日香	関連科目	
第2回	妊娠確定期の助産過程の展開・保健指導案・媒体作成 妊娠確定期の保健指導 演習(1)	鈴木・渡會・ 糟谷・永友・ 田中	周産期医学Ⅰ 周産期医学Ⅱ 母子と家族の 心理	
第3回	妊娠初期の助産過程の展開・保健指導案・媒体作成 妊娠初期の保健指導 演習(2)	鈴木・渡會・ 糟谷・永友・ 田中	助産診断・技 術学Ⅰ 健康教育演習	
第4回	妊娠中期の助産過程の展開・保健指導案・媒体作成 妊娠中期の保健指導 演習(3)	鈴木・渡會・ 糟谷・永友・ 田中		
第5回	妊娠後期の助産過程の展開・保健指導案・媒体作成 妊娠後期の保健指導 演習(4)	鈴木・渡會・ 糟谷・永友・ 田中		
第6回	リスクのある妊婦に対する助産過程の展開・保健指導案・媒体作成 リスクのある妊婦に対する保健指導 演習(5)	鈴木・渡會・ 糟谷・永友・ 田中		
第7回・第8回	リスクのある妊婦に対する臨床推論 リスクのある妊婦の助産過程の展開	鈴木・渡會・ 糟谷・永友・ 田中		
第9回	保健指導技術試験の実施	鈴木・渡會・ 糟谷・永友・ 田中		
第10回	保健指導技術試験の実施内容の評価とまとめ	鈴木・渡會・ 糟谷・永友・ 田中		
第11回・第12回・第13回	診断装置の使用 方法 妊娠各期における診断の実際	中西 豊		
第14回・第15回	妊婦体操の理論と実際	白木和恵		
授業の進め方	妊娠各期の事例に基づき、助産過程の展開、診断を行い、保健指導案を作成する。 作成した保健指導案に基づき、学生同士がロールプレイングによる保健指導演習			
評価の方法	ロールプレイングによる保健指導演習 40% 助産過程の展開、診断、保健指導案の展開50% 超音波診断、妊婦体操の理論と実際、胎児診断と治療については、授業態度、出席状況10%で評価する。			
自己学習の 内容/時間	助産技術の実技については、ゼミ室や実習室で根拠・手順・留意点を踏まえ演習・実習する。演習も技術練習の際は準備から後片付けまでを各人が責任をもって行う。助産技術は身体侵襲が大きく、苦痛を伴うため、安全第一で、正確な知識と根拠に基づいた技術を習得するため練習に励む。			
テキスト	我部山キヨ子編 助産学講座3・6 医学書院 我部山キヨ子編 臨床助産師必携 医学書院			
参考図書	北川真理子 内山和美編集 今日の助産 改訂第4班 南江堂 新道幸恵 和田サヨ子 母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院 武村秀雄 助産師外来で役立つ超音波検査ガイドブック メディカ出版 吉澤豊子 鈴木幸子 マタニティアセスメントガイド 真興交易 日本産婦人科学会 産婦人科診療ガイドライン 2020			

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期
助産診断・技術学	助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）	渡會 涼子・糟谷 ちひろ・鈴木 明日香	2 (30)	前期
教科のねらい	分娩期における母児・家族の特性を理解し、産痛に対する産婦の支援を通してより良い分娩体験となる援助ができる。さらに母子の安全を確保し、分娩期の助産診断をするための知識を学ぶ。			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 分娩経過、母児の状態の正常・異常の診断に必要な知識を習得する。</li> <li>2 分娩各期の母児および家族に必要なケアが実践できる。</li> <li>3 出生直後の児のケアに必要な知識・技術を習得する。</li> <li>4 分娩介助実施に必要な法的責務・必要書類が理解できる。</li> </ol>			
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる。 DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる。			
授 業 内 容		科目担当	備考	
第1回	分娩の定義と種類 分娩3要素（産道、胎児およびその付属物、娩出力）	渡會・糟谷	関連科目	
第2回	分娩3要素と分娩の機序 （陣痛発来機序、軟産道の開大機序、破水、胎児の産道通過機序、胎盤の剥離と娩出、止血機序）	渡會・糟谷	周産期医学Ⅰ 母子と家族の心理 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ	
第3回	分娩中における胎児の健康状態（胎児心拍数モニタリング）	渡會・糟谷		
第4回	フリードマン曲線を用いた分娩予測	渡會・糟谷		
第5回	分娩が母児に及ぼす影響 産婦の心理と家族の心理	渡會・糟谷		
第6回	分娩第1期の正常と異常、診断とケア （入院前・入院時の診断・アセスメントケア、破水の診断とケア）	糟谷・渡會		
第7回	分娩第1期の正常と異常、診断とケア （分娩第1期の過ごし方、ケアの実際）	糟谷・渡會		
第8回	分娩進行に伴う正常経過逸脱時の診断・ケアとその対応 （微弱・過強陣痛、CPD、回旋異常、遷延分娩、誘発・促進、無痛分娩）	糟谷・渡會		
第9回	分娩第2期の正常と異常、診断とケア、異常への対応	糟谷・渡會		
第10回	分娩第3・4期の正常と異常、診断とケア、異常への対応 （胎盤娩出・精査、産道損傷、出血）	糟谷・渡會		
第11回	出生直後の新生児の診断・アセスメントとケア （新生児蘇生、呼吸の助成、保温、全身観察）	鈴木明日香		
第12回	分娩時に関する法的責務・必要書類	糟谷・渡會		
第13回・第14回	異常の移行時における助産師の役割 nonreassuring-pattern 時の対応とケア 異常時の診断・アセスメントとケア （急速遂娩時のケア、緊急帝王切開時のケア、異常出血時のケア）	糟谷・渡會		
第15回	単位認定試験 まとめ	渡會・糟谷		
授業の進め方	講義・演習			
評価の方法	筆記試験100%で評価する。			
自己学習の内容/時間	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する（90分）疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる（90分）			
テキスト	我部山キヨ子編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期、医学書院。 町浦美智子編：助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア、日本看護協会出版会。 小林康江編：助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護協会出版会。 藤森敬也：胎児心拍数モニタリング講座、メディカ出版。 細野茂春：新生児蘇生法テキスト第4版、メジカルビュー社。 平澤美恵子：写真でわかる助産技術アドバンス、インターメディカ。 進純郎：正常分娩の助産術、医学書院／北川真理子他：今日の助産 改訂第4版、南江堂。			
参考図書	レズリー・ページ：新助産学、メディカ出版。／産婦人科診療ガイドライン産科編2020、日本産婦人科学会。 進 純郎（2002）周産期の臨床手技106 産科ケア新春増刊号 メディカ出版／進 純郎（2005）助産師必携会陰保護技術 メディカ出版／岩田塔子（2007）体位別フリースタイル分娩介助法 メディカ出版 戸田律子（2006）WHOの59カ条お産のケア実践ガイド 農文協／飯田俊彦（2006）スキルアップ分娩介助 メディカ出版／清水保（2009）よくわかる分娩とその管理 改訂版2版 永井書店 助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア／胎児心拍モニタリング講座／プリソプル産婦人科学2 母性の心理社会的側面と看護ケア／助産師のためのフィジカルイグザミネーション			

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期	
助産診断・技術学	助産診断・技術演習Ⅱ	渡會 涼子・糟谷 ちひろ・鈴木 明日香・永友 さゆり・田中 花菜・児玉 栄実子・森永 康文	1 (30)	前期	
教科のねらい	分娩進行状態を判断し安全で適切な援助が実践できる。 特に児娩出のための介助技術について根拠を踏まえて実施することができる。				
授業科目の到達目標	1 分娩期の助産診断ができる 2 助産診断から助産ケアの計画・立案ができる 3 分娩期に必要な技術を習得しケアが実践できる				
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる。 DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる。 DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる。				
授 業 内 容			科目担当	備考	
第1回	分娩期のフィジカルイグザミネーション 分娩進行度の診断技術（触診・内診の実際） 分娩介助に必要な基礎看護技術（滅菌ガウンテクニック他）	渡會涼子 糟谷ちひろ	関連科目 周産期医学Ⅰ 周産期医学Ⅱ 助産診断・技術学Ⅱ		
第2回	分娩介助法 (1) 分娩介助の目的 (2) 準備（物品・環境・介助者） (3) 分娩介助技術（児頭娩出法・体幹娩出法・胎盤娩出法）	渡會涼子 糟谷ちひろ			
第3回	分娩進行に応じたケア (1) 呼吸法とリラックス法 (2) 分娩進行を促進する体位	渡會・鈴木 糟谷・永友・田中			
第4回	教員による分娩介助のデモンストレーション 分娩介助の演習	渡會・鈴木 糟谷・永友・田中			
第5回	新生児のフィジカルイグザミネーション 出生直後の新生児の観察・計測・援助の基本 インファントウォーマーの取扱い 新生児の口腔・鼻腔内吸引・酸素吸入	鈴木明日香・田中花菜			
第6回	分娩介助における基本技術の演習	渡會・鈴木 糟谷・永友・田中			
第7回・第8回	教員による分娩介助のデモンストレーション 作成した事例に基づく分娩介助の演習	渡會・鈴木 糟谷・永友・田中			
第9回	作成した事例に基づく分娩介助の技術チェック	渡會・鈴木 糟谷・永友・田中			
第10回	分娩介助技術テスト	渡會・鈴木 糟谷・永友・田中			
第11回・第12回	フリースタイル分娩介助法	児玉栄実子			
第13回・第14回	会陰切開および裂傷における会陰縫合術	森永康文			
第15回	まとめ	渡會涼子 糟谷ちひろ			
授業の進め方	講義・演習				
評価の方法	実技試験：100%（技術チェック30% 技術試験70%）で評価する。 再試験における実技試験不合格者は「助産学実習」の履修は不可				
自己学習の内容/時間	助産技術の実技については、ゼミ室や実習室で根拠・手順・留意点を踏まえ演習・実習する。 演習も技術練習の際は準備から後片付けまでを各人が責任をもって行う。助産技術は身体侵襲が大きく、苦痛を伴うため、安全第一で、正確な知識と根拠に基づいた技術を習得するため練習に励む。				
テキスト	「分娩期の助産診断・技術学Ⅱ」に準ずる				
参考図書	「分娩期の助産診断・技術学Ⅱ」に準ずる				

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期		
助産診断・ 技術学	助産診断・技術学Ⅲ (産褥期・育児期)	鈴木 明日香・永友 さゆり・ 東 真由美・田口 由紀子・ 加仲 真理子	2 (30)	前期		
教科のねらい	産褥期にある母と児の母子関係の促進や、母乳育児への支援、乳房管理について学ぶ。更な産後の子宮復古促進への援助や、退院後の生活育児について理解を深め、子育て期の家族への支援について学ぶ。					
授業科目の 到達目標	1 産褥期・新生児期・乳幼児期に必要な助産診断できる。 2 産褥期・新生児期・乳幼児期に必要な技術について習得し、ケアが実践できる。					
授業科目の 到達目標 〔ディプロマ ポリシー【DP】 との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる。					
授 業 内 容			科目担当	備考		
第1回	産褥期の身体的変化とフィジカルアセスメント (退行性変化)	永友さゆり	関連科目			
第2回	産褥期の身体的変化とフィジカルアセスメント (進行性変化)	鈴木明日香	周産期医学Ⅰ 周産期医学Ⅱ 母子と家族の 心理 助産診断・技 術学Ⅰ 助産診断・技 術学Ⅱ			
第3回	産褥期の支援 (1) 退行性変化促進の支援 (5) 育児行動習得への支援 (2) 日常生活適応の支援 (6) 家族への支援 (3) 心理社会的側面の支援 (7) 産褥合併症を持つ褥婦の支援 (4) 家庭・社会生活復帰への支援	永友さゆり				
第4回・第5回	新生児のケア	鈴木明日香				
第6回	特殊な状況にある褥婦のケア (1) ベリネイタルロス (2) 健康に障がいがある児をもつ褥婦へのケア	鈴木明日香				
第7回	産褥期の退院指導：個別・集団指導 家族計画の概要	永友さゆり				
第8回	家族計画の実際	永友さゆり				
第9回	単位認定試験 まとめ	鈴木明日香				
第10回・第11回	母乳育児支援 (母乳育児確立の診断・アセスメントとケア) 母乳育児支援の実際 (1) 異常状態、合併症の予防とケア (2) 母乳栄養が継続できるためのケア	東真由美				
第12回・第13回	双子のケア (入院中のケア) 双子のケア (退院後のケア・母乳育児支援)	田口由紀子				
第14回・第15回	N I C U・G C U：役割機能、環境、看護 新生児の異常徴候、ハイリスク因子のアセスメント 低出生体重児のケア 緊急に搬送すべき新生児の症状、搬送までの対応 ハイリスク児の家族支援	加仲真理子				
授業の進め方	講義・演習					
評価の方法	筆記試験90%、出席状況、演習参加状況10%で評価する。					
自己学習の 内容/時間	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する (90分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる (90分)					
テキスト	我部山キヨ子編 助産学講座3・7・8 医学書院 新受胎調節指導用テキスト 我部山キヨ子編 臨床助産師必携 医学書院					
参考図書	UNICEF / WHO 母乳育児支援ガイド アドバンスコース 医学書院 2011 UNICEF / WHO 母乳育児支援ガイド スタンダード 医学書院 2007 吉澤豊子 鈴木幸子 マタニティアセスメントガイド 真興交易 その他 授業内で紹介					

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期
助産診断・技術学	助産診断・技術演習Ⅲ	鈴木 明日香・永友 さゆり・渡會 涼子・糟谷 ちひろ・田中 花菜・吉金 千賀子・宮本 真希・加仲 真理子	1 (30)	前期
教科のねらい	産褥退院後の生活に配慮した指導や相談ができるよう、知識・技術を学ぶ。特に、退院指導案の作成と実施、産褥期に用いられる様々な技術を習得する。			
授業科目の到達目標	1 産褥期・乳幼児期に必要な助産診断ができる。 2 産褥期・乳幼児期に必要な技術を習得し、ケアが実践できる。 3 東洋医学、アロママッサージ、新生児蘇生など実際の方法を学ぶ。			
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる。 DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる。 DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる。			
	授 業 内 容	科目担当	備考	
第1回	産褥期の診断技術演習 子宮底測定・触診、恥骨結合離開、腹直筋離開、乳房の視診・触診 ほか 新生児のケア、乳幼児の健康診査 発達診断学的な診察 保育器の取り扱い	永友・鈴木・渡會・糟谷・田中	関連科目 周産期医学Ⅰ 周産期医学Ⅱ 母子と家族の心理	
第2回	母乳育児支援（母乳育児の診断とケア） 産褥期の乳房管理・授乳支援 母乳栄養を行えない／行わない 褥婦へのケア	鈴木・永友・渡會・糟谷・田中	助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ	
第3回	産褥1日目 指導計画立案の実際 産褥期・新生児期の助産過程・保健指導案・媒体作成	永友・鈴木・渡會・糟谷・田中	助産診断・技術学Ⅲ	
第4回・第5回	産褥期の保健指導（個別）演習 産褥1日目の指導：母児同室指導、初回授乳指導を含む	永友・鈴木・渡會・糟谷・田中		
第6回	退院指導計画立案の実際 産褥期・新生児期の助産過程・保健指導案・媒体作成	永友・鈴木・渡會・糟谷・田中		
第7回・第8回	産褥期の保健指導（個別）演習 産褥5日目の退院指導	永友・鈴木・渡會・糟谷・田中		
第9回・第10回	東洋医学 妊産褥婦・児のツボ、マッサージ	吉金千賀子		
第11回・第12回	アロママッサージ ベビーマッサージ	宮本真希		
第13回・第14回・第15回	新生児蘇生法（Bコース）の実際 ベビーキャッチ時のポイントと観察項目	加仲真理子 鈴木・糟谷・田中・渡會・永友		
授業の進め方	講義・演習			
評価の方法	課題レポート20% 演習・技術試験（助産過程の展開、診断、保健指導案の展開、実施、評価の内容）を80%で評価する。			
自己学習の内容/時間	助産技術の実技については、ゼミ室や実習室で根拠・手順・留意点を踏まえ演習・実習する。演習も技術練習の際は準備から後片付けまでを各人が責任をもって行う。助産技術は身体侵襲が大きく、苦痛を伴うため、安全第一で、正確な知識と根拠に基づいた技術を習得するため練習に励む。			
テキスト	我部山キヨ子編 助産学講座3・7・8 医学書院、我部山キヨ子編 臨床助産師必携 医学書院 新生児蘇生法テキスト			
参考図書	北川真理子 内山和美編集 今日の助産 改訂第3班 南江堂 仁志田博司 新生児学入門 第4版 2012 医学書院 UNICEF/WHO 母乳育児支援ガイド アドバンスコース 医学書院 2011 吉澤豊子 鈴木幸子 マタニティアセスメントガイド 真興交易 UNICEF/WHO 母乳育児支援ガイド スタンダード 医学書院 2007 …その他 授業内で紹介			

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期
助産診断・ 技術学	健康教育演習	近森 けいこ・永友 さゆり・ 鈴木 明日香・渡會 涼子・ 糟谷 ちひろ・田中 花菜	1 (30)	前期
教科のねらい	女性のライフサイクル各期の健康課題とその病態生理について学ぶと共に、健康生活の質を高めるための基礎知識を学ぶ。あらゆるライフステージの支援となる健康教育の技法を理解し、集団を対象とした健康教育の企画・運営についてグループワークを通して学ぶ。			
授業科目の 到達目標	1 子育て支援や女性支援に必要な指導の企画ができる。 2 実際に企画した集団指導を実施する。 3 実施した指導の評価ができる。			
授業科目の 到達目標 〔ディプロマ ポリシー【DP】 との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる。 DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる。			
	授 業 内 容	科目担当	備考	
第1回	集団教育の技法	近森けいこ	関連科目	
第2回	教育計画の樹て方	近森けいこ	助産学概論	
第3回	教育技術の方法 - 集団指導の効罪	近森けいこ	助産診断・技 術学Ⅰ	
第4回	指導計画の樹立	近森けいこ	助産診断・技 術学Ⅲ	
第5回	事業の企画	近森けいこ	母子と家族の 心理	
第6回	広報活動の技術	近森けいこ	健康教育演習	
第7回	集団教育のプログラムのチェック	近森けいこ		
第8回	個別指導の過程・段階：行動変容のための保健指導	永友さゆり		
第9回	個別指導案作成の方法	永友さゆり		
第10回	集団指導のテーマ決定 グループで進行計画立案 企画案・指導案・教材の作成 集団教育の教育技法の活用	永友・鈴木・ 渡會・糟谷・ 田中		
第11回	集団指導デモンストレーションへ準備	永友・鈴木・ 渡會・糟谷・ 田中		
第12回・第13回	集団指導デモンストレーションへ準備・修正	永友・鈴木・ 渡會・糟谷・ 田中		
第14回・第15回	各グループのデモンストレーションの発表・意見交換・評価	永友・鈴木・ 渡會・糟谷・ 田中		
授業の進め方	テーマによりグループに分かれて、集団指導の企画・実施をおこなう			
評価の方法	指導案50%、授業態度（グループワークへの参加・貢献）10% デモンストレーションおよび指導案の修正40%で評価する。			
自己学習の 内容/時間	助産技術の実技については、ゼミ室や実習室で根拠・手順・留意点を踏まえ演習・実習する。 演習も技術練習の際は準備から後片付けまでを各人が責任をもって行う。助産技術は身体侵襲が大きく、苦痛を伴うため、安全第一で、正確な知識と根拠に基づいた技術を習得するため練習に励む。			
テキスト	我部山キヨ子編 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ、医学書院 我部山キヨ子編 臨床助産師必携、医学書院 我部山キヨ子編 竹村秀雄監修 母親学級・両親学級指導マニュアル、メディカ出版 産後のヨーガ、日本マタニティヨーガ協会 他			

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期
助産学発展	地域母子保健学	清水 嘉子・山口 江利子・ 石田 路子	2 (30)	前期
教科のねらい	母子保健の現状から女性・子ども・家族の健康生活を支援する助産師の役割を学ぶとともに、地域における活動を行う上で求められる基礎的な知識や活動の実際について学ぶ。			
授業科目の到達目標	1 地域で母子保健活動を実践するための基礎知識について学ぶ 2 地域母子保健活動における助産師の役割について学ぶ			
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP 2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる。 DP 3：保健医療チームの一員として、他職種と連携・協働し、助産師としての役割を遂行できる。 DP 4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる。 DP 5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる。			
授 業 内 容			科目担当	備考
第1回	地域母子保健の基本 1) 母子保健の概念と意義 2) 地域母子保健活動	清水嘉子	関連科目	
第2回	母子保健の現状と動向 1) 母子保健統計の分析 2) 母子保健に関わる諸問題 ・人口構造、疾病構造の変化 ・育児環境の変化 ・医療環境の変化 その他	清水嘉子	周産期医学Ⅰ 周産期医学Ⅱ 母子と家族の心理 助産学概論 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学Ⅲ	
第3回	妊娠期からのサポート	清水嘉子		
第4回	母子保健行政 1) 母子保健行政の仕組み 2) 母子保健計画事業への参画と評価	石田路子		
第5回	母子に関する社会保障制度	石田路子		
第6回	地域母子保健活動の展開 1) 母子保健活動展開の場とその特徴 2) 母子保健活動を行う上での連携 行政との連携 民間組織との連携 3) 地域組織活動	清水嘉子		
第7回・第8回	地区診断と地域母子保健活動計画	山口江利子		
第9回	法に基づいた訪問指導 1) 妊婦訪問指導 2) 新生児訪問指導 3) 褥婦訪問指導	清水嘉子		
第10回・第11回	産後1か月母子訪問演習	清水嘉子・ 山口江利子		
第12回	女性のライフサイクルへの支援：子育て支援・児童虐待防止	清水嘉子		
第13回	女性のライフサイクルへの支援：女性の健康	清水嘉子		
第14回・第15回	新生児期、乳幼児期の不慮の事故について 乳幼児の健康診査について 3-4か月、9-10か月、1歳半、3歳、5歳	清水嘉子		
授業の進め方	講義 演習			
評価の方法	レポート100%で評価する。			
自己学習の内容/時間	地域を助産学で学ぶ上での入門となる。各自講義に関する学びを深めるために、問題意識を持った自己学習を重ねることで、自らの学びとする努力をすること (90分) 常に社会情勢を意識すること			
テキスト	我部山キヨ子編 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健、医学書院			
参考図書	講義の際に配布資料として準備する			

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期
助産学発展	国際・災害助産学	青山 温子・塩澤 綾乃・ 渡邊 さつき	1 (15)	前期
教科のねらい	グローバルな場で活躍する助産師の活動について学ぶ。 特に発展途上国における母子保健の課題を知るとともに、災害時の母子保健について学ぶ。			
授業科目の 到達目標	1 国際医療活動と世界の母子保健の現状がわかる 2 国際社会における助産活動の在り方を考究する 3 国際人道支援機関が発表する母子保健の指標とその動向を知り日本と比較しその背景を考える 4 在日外国人とのかかわりに必要な異文化との接し方を学ぶ 5 発展途上国の女性や子どもの痛みを理解する 6 災害時における母子保健活動について理解する			
授業科目の 到達目標 〔ディプロマ ポリシー【DP】 との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる。 DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる。 DP3：保健医療チームの一員として、他職種と連携・協働し、助産師としての役割を遂行できる。 DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる。			
	授 業 内 容	科目担当	備考	
第1回	国際助産学の概要と背景について概説する。「国際保健医療学概論」では、世界の保健医療の課題および健康問題の背景にある要因について概要を知る。	青山温子	関連科目 助産学概論 地域母子保健	
第2回	「ジェンダーと健康 / リプロダクティブ・ヘルス」では、ジェンダーと健康の関連や、世界と日本のリプロダクティブの課題について理解を深める。	青山温子		
第3回	「戦略と対策 / 健康危機管理」では、健康を改善する世界的戦略と対策の概要を知り、災害と健康、および健康危機管理の基本を理解する。	青山温子		
第4回・第5回	JICA、その他の国際活動において実際に活躍した助産師の講話から、国(地域)における実態と支援について理解を深める。様々な異文化における特徴を知り、特に在日している外国人の支援について考える。	塩澤綾乃		
第6回・第7回・第8回	災害時の助産活動についてその目的や意義について知り、具体的な課題を知る。そのうえで、避難所における妊産婦の支援、女性の支援について学ぶ。津波、大雨、地震、原子力発電所の事故など様々な被災地で活動した助産師の活動から、災害時の支援についての理解を深める。	渡邊さつき		
授業の進め方	テーマに沿ったオムニバス方式、講義			
評価の方法	レポート(国際・災害に関する)100%で評価する。			
自己学習の 内容/時間	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(90分)疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)			
テキスト	我部山キヨ子編：助産学講座9 地域母子保健 / 国際母子保健 第4版、医学書院。 福井トシ子編：【新版】助産師業務要覧 第3版 I 基礎編、日本看護協会出版会。 福井トシ子編：【新版】助産師業務要覧 第3版 III アドバンス編、日本看護協会出版会。			
参考図書	国連、WHO、ユニセフ、CDCなどのウェブサイトから母子保健に関する情報、母子保健の指標などの統計 李節子編：在日外国人の母子保健 日本に生きる世界の母と子、医学書院。 徳永瑞子、内海博文：国際看護学、クオリティケア、2014。 国際保健医療学 第3版 杏林書院 2013 シリーズ / 国際開発第3巻：生活と開発 日本評論社 2005 開発と健康—ジェンダーの視点から 有斐閣出版 2001 我部山キヨ子編 助産学講座9 地域母子保健 / 国際母子保健 医学書院 第4版 国連、WHO、ユニセフ、CDCなどのウェブサイトから母子保健に関する情報、母子保健の指標などの統計 李節子編、在日外国人の母子保健 日本に生きる世界の母と子、医学書院 徳永瑞子、内海博文 国際看護学 クオリティケア 2014			

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期
助産学発展	助産学研究	清水 嘉子・鈴木 明日香・ 渡會 涼子・糟谷 ちひろ・ 永友 さゆり・田中 花菜・ 藤井 省三	1 (30)	前・後期
教科のねらい	助産専門職には、自己や医療チームの実践を客観的に振り返ることを通して提供する助産ケアをより良いものにしていくことが求められる。そのために、文献検討や事例検討を行いこれらの基本能力を向上させることを狙いとする。最新の研究論文を読みその成果を実践に取り入れていくことを学ぶ。基礎的な取り組みとして、継続事例に対する事例研究に取り組む。			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産学研究の目的・意義がわかる。</li> <li>2 事例検討の目的・意義がわかる。</li> <li>3 文献クリティークの視点が分かる。</li> <li>4 継続事例の経過や実施したケアを振り返り、最新の知見を踏まえて、分析考察することができる。</li> <li>5 自らの助産観に向き合い、深めることができる。</li> </ol>			
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP3：保健医療チームの一員として、多職種と連携・協働し、助産師としての役割を遂行できる DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる。 DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上を目指して主体的に学習する態度を身につけ自立できる			
授 業 内 容			科目担当	備考
第1回	助産師と研究	清水嘉子	関連科目	
第2回	研究のプロセス 研究の種類と特徴	清水嘉子	すべての科目	
第3回	文献クリティークについて	清水嘉子		
第4-5回	文献検索 電子検索等	図書館司書		
第6回	事例研究とは 事例研究オリエンテーション	鈴木・清水・ 渡會・糟谷・ 永友・田中		
第7-8回	継続事例等でフォーカスする視点を文献検索し、クリティークする	清水・鈴木・ 渡會・糟谷・ 永友・田中		
第9-13回	事例研究のまとめ（レポートの作成）	清水・鈴木・ 渡會・糟谷・ 永友・田中		
第14-15回	事例研究発表準備	清水・鈴木・ 渡會・糟谷・ 永友・田中		
授業の進め方	講義、自己課題の取り組み			
評価の方法	事例研究レポート100%			
自己学習の内容/時間	研究を学ぶ上でポイントとなる。各自講義に関する学びを深めるために、問題意識を持った自己学習を重ねることで、自らの学びとする努力をすること（90分）			
テキスト	大木秀一 看護研究・看護実践を高めるための文献レビューの基本 医歯薬出版 2013 他、 随時提示する。			
参考図書	清水嘉子 育児で感じる幸せな気持ち 育児幸福感 東京図書出版 2016 APA 論文作成マニュアル第2版 アメリカ心理学会 医学書院 2011 戈木クレイグヒル質的研究方法ゼミナール. 医学書院. 2005 スープロクター他 助産学研究入門 エビデンスに基づく実践を目指して 医学書院 2003 ジェイムズPスプラッドリー 参加観察法入門 医学書院 2010			

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期
助産学発展	助産学特論	磯部 一郎・林 和宏・ 茅喜田 恵子	1 (15)	後期
教科のねらい	周産期周辺のトピックスについて扱うことで助産実践活動に資する。 特に助産活動において遭遇する法医学からの死体検案と解剖、周産期における医療過誤等学びを深める。 さらに、対象との関係性において傾聴する、共感することのできる看護者になるための学習を深める。			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 法医学の観点から、周産期死亡の原因や医療紛争になりやすい、周産期の障害と異常に至る経過について理解を深める。</li> <li>2 医療事故、特に医療紛争が多発している現状を理解し、助産師として必要な法的問題の知識と考え方の基礎を学ぶ。</li> <li>3 カウンセリング技法を学ぶとともに、対象との関係性において傾聴する、共感することのできる看護者になるための学習を深める。</li> </ol>			
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる。			
授 業 内 容			科目担当	備考
第1回・第2回	法医学（死胎検案と解剖制度、小児の法医学）	磯部一郎	関連科目	
第3回・第4回	医療過誤について	林 和宏	すべての科目	
第5回・第6回・第7回・第8回	カウンセリング技法 共感 傾聴の姿勢など 助産師として活動していく上で大切になる技術について学ぶ（演習を含む）	茅喜田恵子		
授業の進め方	テーマに沿ったオムニバス方式 講義 演習			
評価の方法	レポート100%で評価する。			
自己学習の内容/時間	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する（90分）疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる（90分）			
テキスト	講義の際に提示する。主として配布資料に基づく。			
参考図書	あらかじめ参考とすべき図書を案内をする。			

領域	授業科目	担当講師	単位 (時間数)	履修学期	
助産学発展	助産管理学	渡會 涼子・加藤 朋子・ 木全 美智代	2 (30)	前期	
教科のねらい	経営管理の基本概念を学び助産業務の特性と管理過程を理解する。また、助産師として職業倫理について理解を深める。				
授業科目の到達目標	1 管理の基本概念が理解できる。 2 助産実践の場の違いによる管理の特性が理解できる。 3 助産管理に関連する法規、社会保障制度が理解できる。 4 助産所開設に必要な書類や施設の準備ができる。				
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる。 DP3：保健医療チームの一員として、他職種と連携・協働し、助産師としての役割を遂行できる。 DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる。 DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる。				
授 業 内 容			科目担当	備考	
第1回	助産管理の基本 管理とは マネージメントプロセス	渡會涼子	関連科目  助産学概論		
第2回	助産業務管理（個々の管理と組織の管理）	渡會涼子			
第3回	助産ケアの質 助産業務ガイドライン	渡會涼子			
第4回	周産期医療システム 多職種連携	渡會涼子			
第5回	周産期における医療事故とリスクマネジメント	渡會涼子			
第6回	新人助産師の職場適応を促すための取り組みの実際	渡會涼子			
第7回・第8回・第9回・第10回	助産所における助産業務管理 助産業務管理の方法 助産所の管理・運営 経営 助産業務と医療事故	加藤朋子			
第11回・第12回	助産所開設計画書の作成と発表	渡會涼子			
第13回・第14回	施設における助産業務管理 助産外来 院内助産	木全美智代			
第15回	単位認定試験 まとめ	渡會涼子			
授業の進め方	講義 オムニバス				
評価の方法	レポート（助産所開設計画）30% 筆記試験70%で評価する。				
自己学習の内容/時間	助産学を学ぶ上での入門となる。各自講義に関する学びを深めるために、問題意識を持った自己学習を重ねることで、自らの学びとする努力をすること（90分）				
テキスト	我部山キヨ子編 助産学講座10 助産管理 医学書院				
参考図書	高田利広他編：助産師業務要覧、日本看護協会出版会 看護行政研究会監修：看護六法、新日本法規出版会 荘村多加志：五訂 母子保健法の解釈と運用、中央法規出版株式会社				

領域	授業科目	単位 (時間数)	履修学期
助産学実践	助産学実習Ⅰ（妊娠期）	2（90）	後期
教科のねらい	妊娠期にある対象の助産診断を行い、ウェルネスの看護を踏まえた保健指導について実践する。妊娠生活が分娩・産褥生活へと継続することを理解して、分娩に向けた準備について学ぶ。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠の時期・経過の診断ができる。</li> <li>2 妊婦の身体的・精神的・社会的側面を統合し、ケアと指導の実施ができる。</li> <li>3 妊婦のセルフケア能力の診断と支援ができる。</li> <li>4 妊婦とその家族の意志決定を尊重し、個性性を考慮した支援ができる。</li> <li>5 妊婦が母乳育児に向けて準備を整えるための指導とケアができる。</li> <li>6 妊婦とその家族の役割適応を促すための支援ができる。</li> </ol>		
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる DP3：保健医療チームの一員として、他職種と連携・協働し、助産師としての役割を遂行できる DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる		
授 業 内 容		備 考	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦、胎児の健康状態の診断               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 問診、外診、内診、臨床検査などの診断技術を用いた母体の健康状態の診断</li> <li>2) ME 機器、外診などによる胎児および付属物の診断</li> </ol> </li> <li>2. 妊婦のケアと保健指導               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊婦の身体的変化への適応を促すケア</li> <li>2) 妊婦の心理的、社会的変化への適応を促す支援</li> <li>3) 妊娠期の母親役割取得を促進するための支援</li> </ol> </li> <li>3. 妊婦のセルフケア能力の診断と支援</li> <li>4. 妊婦とその家族の意思決定を尊重した支援               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊婦とその家族の意思決定の支持</li> <li>2) パートナーや家族から適切なサポートが受けられるための支援</li> </ol> </li> <li>5. 母乳育児を行うための準備と指導               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母乳栄養選択への動機づけ</li> <li>2) 妊娠各期に応じた乳房ケアについての指導</li> </ol> </li> <li>6. 妊婦とその家族の役割適応を促すための支援               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出産準備教育</li> <li>2) 産後の生活調整を行うための支援</li> </ol> </li> <li>7. 集団指導の実施 * 実習期間中に1例               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 集団指導の企画・運営・評価</li> </ol> </li> </ol>		<p>*継続事例を決め、妊娠分娩産褥期を継続した助産ケアを実践する。</p> <p>&lt;実習施設&gt;            森永産婦人科            ロイヤルベルクリニック            鈴木病院            貴子ウィメンズクリニック</p> <p>&lt;担当教員&gt;            1施設 1名-2名の教員が担当する。</p>	
自己学習の内容/時間	事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために自己練習に励んでほしい。常に社会情勢に関心を持ち深めることに努めてほしい。		
評価の方法	評価表に基づく評価		

領域	授業科目	単位 (時間数)	履修学期
助産学実践	助産学実習Ⅱ(分娩期)	7(315)	後期
教科のねらい	分娩期にある産婦の助産診断を行い、安全で安楽な分娩経過に向けた援助を実践する。 産婦と家族にとってより良い体験となるよう心掛ける。 特に10例以上の分娩介助を実践する。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 分娩経過及び分娩経過中の母児の健康状態の診断ができる。</li> <li>2 分娩の進行を正常に保つための助産ケアの実践ができる。</li> <li>3 母児に安全で快適な分娩介助ができる。</li> <li>4 新生児の胎外生活を促進するための援助ができる。</li> <li>5 産婦及び家族の新生児に愛着を促す助産ケアの実践ができる。</li> <li>6 助産師として持ち備える姿勢を習得できる。</li> </ol>		
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる DP3：保健医療チームの一員として、他職種と連携・協働し、助産師としての役割を遂行できる DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる		
授 業 内 容		備 考	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩経過中の母児の健康状態の判断               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 診断技術を活用した分娩経過の正常・異常の判断                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 分娩三要素と分娩経過の診断・予測</li> <li>(2) 児娩出時間の予測と修正</li> </ol> </li> <li>2) 母体の健康状態の診断</li> <li>3) 胎児の健康状態の診断                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 胎児心拍数モニタリングの判読と対処方法</li> <li>(2) 胎児予備能力の診断</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. 正常な分娩経過への助産ケア               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 産婦・家族への分娩支援                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 快適さの提供</li> <li>(2) 安心感の保証</li> <li>(3) 苦痛緩和</li> <li>(4) 分娩経過に関する情報提供</li> <li>(5) 基本的ニーズの充足</li> <li>(6) 産婦の質問への適切な対応</li> <li>(7) 胎児の状態の情報提供</li> <li>(8) 母体の状態の情報提供</li> <li>(9) 情緒的支援</li> <li>(10) 産婦・家族の要望・訴えへの対応</li> <li>(11) 産婦の強みの活用</li> </ol> </li> <li>2) 分娩の進行を促進し産婦の疲労を最小限にとどめる助産ケア                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 産痛緩和</li> <li>(2) 基本的ニーズの充足</li> <li>(3) 体位の選択・工夫</li> <li>(4) 呼吸法・リラクセス法</li> <li>(5) 環境</li> </ol> </li> <li>3) 胎児の健康状態を維持するための助産ケアの実践</li> </ol> </li> <li>3. 母児に安全で快適な分娩介助               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 分娩介助の一連の動作</li> </ol> </li> <li>4. 新生児の胎外生活適応への援助               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊娠・分娩経過から出生する児の状態の予測</li> <li>2) 出生した児の状態の判断とケア                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) アプガースコアを基準にした観察</li> <li>(2) 保温</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>5. 親と子の愛着を促すケア               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) バースレビュー</li> <li>2) 早期面会、早期母児接触</li> <li>3) 父親の児への愛着形成への支援</li> </ol> </li> <li>6. 緊急時・異常発生時の対応               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ハイリスク因子の査定</li> <li>2) 前早期破水時の観察と対応</li> <li>3) 分娩遷延時の助産ケア</li> <li>4) 胎児機能不全の早期発見、観察と対応</li> <li>5) 急遂分娩時の介助の実際(吸引・鉗子分娩時の介助、帝王切開術時のケア)</li> <li>6) 異常出血時の観察と対応</li> <li>7) 母体搬送の適応</li> </ol> </li> </ol>		<p>*継続事例を決め、妊娠分娩産褥期を継続した助産ケアを実践する。</p> <p>&lt;実習施設&gt; 森永産婦人科 ロイヤルベルクリニック 鈴木病院 貴子ウィメンズクリニック</p> <p>&lt;担当教員&gt; 1施設 1名-2名の教員が担当する。</p>	
自己学習の内容/時間	事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために自己練習に励んでほしい。常に社会情勢に関心を持ち深めることに努めてほしい。		
評価の方法	評価表に基づく評価		

領域	授業科目	単位 (時間数)	履修学期
助産学実践	助産学実習Ⅲ (産褥期・育児期)	3 (135)	後期
教科のねらい	産後の生活について個別の背景や経過を踏まえて長期見通しをもった支援目標を設定し、ケアを実践する。退院時の個別指導や家庭訪問を実施する。特にハイリスク新生児を対象とした看護を学び児と児を取り巻く家族の援助について理解を深める。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>産後の母子の正常な経過を促進する援助ができる。</li> <li>褥婦の心理社会的側面の診断と援助ができる。</li> <li>育児の基本行動習得に向けた支援ができる。</li> <li>産後1ヶ月までの見通しをもった援助ができる。</li> <li>母乳育児の支援ができる。</li> <li>ハイリスク新生児と児を取り巻く家族の援助について理解できる。</li> <li>産褥期における母親役割、父親役割の獲得に向けた支援ができる。</li> <li>家族関係の再構築を図るための支援が理解できる。</li> </ol>		
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる DP3：保健医療チームの一員として、他職種と連携・協働し、助産師としての役割を遂行できる DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる		
授 業 内 容		備 考	
<ol style="list-style-type: none"> <li>産後の母子の正常な経過を促進する援助               <ol style="list-style-type: none"> <li>産後日数に応じた退行性変化、進行性変化の診断と援助</li> <li>生後日数に応じた新生児の診断と援助</li> </ol> </li> <li>褥婦の心理社会的側面の診断と援助               <ol style="list-style-type: none"> <li>妊娠・出産経験を肯定的に受けとめられるための支援</li> <li>産後の生活に適応できるための診断と援助</li> </ol> </li> <li>育児の基本行動習得に向けた支援               <ol style="list-style-type: none"> <li>褥婦が育児行動を高めるための指導と援助</li> <li>褥婦の育児方針を尊重した育児方法の指導</li> </ol> </li> <li>産後1ヶ月が経過するまでの見通しをもった支援               <ol style="list-style-type: none"> <li>退院から1ヶ月健診までの母子の生活を予測した指導</li> <li>起こり得る産褥期・新生児期の異常を予防するための指導</li> </ol> </li> <li>母乳育児継続のための支援               <ol style="list-style-type: none"> <li>母乳育児を成功させるための適切な授乳技術と乳房ケアの指導・援助</li> </ol> </li> <li>ハイリスク新生児と児を取り巻く家族に対する援助               <ol style="list-style-type: none"> <li>ハイリスク新生児の特徴をふまえたケアの実際</li> <li>母子分離状態にある母親を始め、取り巻く家族の思い</li> </ol> </li> <li>産褥期における母親役割、父親役割の獲得に向けた支援               <ol style="list-style-type: none"> <li>出産後の母親、父親役割変化の認識</li> <li>産後の生活で役割調整を図るための支援</li> </ol> </li> <li>家族関係の再構築を図るための支援               <ol style="list-style-type: none"> <li>家族関係の理解 (きょうだい、祖父母)</li> <li>家族関係の再構築と役割調整のための支援</li> </ol> </li> </ol>		*継続事例を決め、妊娠分娩産褥期を継続した助産ケアを実践する。  <実習施設> 森永産婦人科 ロイヤルベルクリニック 鈴木病院 貴子ウィメンズクリニック 安城更生病院  <担当教員> 1施設 1名-2名の教員が担当する。	
自己学習の内容/時間	事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために自己練習に励んでほしい。常に社会情勢に関心を持ち深めることに努めてほしい。		
評価の方法	評価表に基づく評価		

領域	授業科目	単位 (時間数)	履修学期
助産学実践	助産学実習Ⅳ（地域母子）	1（45）	後期
教科のねらい	地域で生活する母子の健康生活支援体験をとおり、助産師としての課題を考える。 子育て期の母親の理解を深め、地域における母子の健康支援について学ぶ。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 母子が活用できる地域における母子保健活動の内容とシステムを理解し、母子への指導ができる</li> <li>2 地域で生活する母子への援助の必要性を理解し、母子への支援ができる</li> <li>3 医療機関、助産所、保健所との連携について理解し、連携を取るための能力を身につけることができる</li> <li>4 保健所、保健センターにおける活動について理解し、多職種との連携により、母子の支援ができる</li> </ol>		
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる DP3：保健医療チームの一員として、他職種と連携・協働し、助産師としての役割を遂行できる DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる		
授 業 内 容		備 考	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域における母子保健活動の内容、システム               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健所で行われている母子保健活動の内容・方法</li> <li>2) 保健所で行われているサービスが、母子に適応されるまでの過程</li> <li>3) 保健所における母子保健活動の実施評価</li> <li>4) 保健所で母子保健サービスを行うための人的資源、財政、物的資源の活用について</li> </ol> </li> <li>2. 地域で生活する母子への援助の必要性               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域で生活する母親の育児状況や親子関係</li> <li>2) 看護職に対する母子のニーズ</li> <li>3) 母子、家族支援の課題</li> </ol> </li> <li>3. 医療機関、助産所、地域との連携について               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 異なる施設に勤務する助産師、保健師間の情報共有の方法</li> <li>2) 母子や家族を支援する職種間の役割</li> </ol> </li> <li>4. 地域の助産師への役割期待について考察できる</li> </ol>		＊保健所は 1箇所を実習する。  <実習施設> 名古屋市保健センター (名古屋市健康福祉局 健康増進課地域看護担当課と調整)	
自己学習の内容/時間	事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために自己練習に励んでほしい。常に社会情勢に関心を持ち深めることに努めてほしい。		
評価の方法	評価表に基づく評価		

領域	授業科目	単位 (時間数)	履修学期
助産学実践	助産学実習Ⅴ(助産管理)	1(45)	後期
教科のねらい	病院・助産所・診療所における安全・経営・災害時等の助産管理の実際について学ぶ。 さらに、施設間の地域連携の実際について理解を深める。		
授業科目の到達目標	1 助産所における助産管理の実際を学び、女性の健康のための活動ができる。 2 地域で生活する母子への援助の必要性を理解し、支援ができる。 3 地域で生活する母子を支援するための、医療機関、助産所、地域との連携をとるための能力を身につけることができる。 4 地域の助産師への役割期待と助産所の果たす役割が理解でき、助産所の活動に繋げることができる。		
授業科目の到達目標 〔ディプロマポリシー【DP】との関連〕	DP1：正常に経過する妊娠・分娩・産褥期の母子の健康状態を診断し、助産技術の実践ができる DP2：健やかな家族の成長を支えることができるよう妊娠・出産・育児期の支援ができる DP3：保健医療チームの一員として、他職種と連携・協働し、助産師としての役割を遂行できる DP4：職業人として倫理に基づいた行動がとれる DP5：専門職として社会の変動や科学の進歩に伴い、看護の向上をめざして主体的に学習する態度を身につけ自律できる		
授 業 内 容		備 考	
1. 助産所における助産管理の実際がわかる。 1) 助産所の管理の実際を知る 2) 助産所で行われている母子保健活動の内容・方法がわかる。  2. 地域で生活する母子への援助の必要性 1) 地域で生活する母親の育児状況や親子関係 2) 看護職に対する母子のニーズ 3) 母子、家族支援の課題  3. 医療機関、助産所、地域との連携について 1) 異なる施設に勤務する助産師、保健師間の情報共有の方法について 2) 母子や家族を支援する職種間の役割  4. 地域の助産師への役割期待について考察できる		*助産所は1箇所です実習する  <実習施設> 碧助産院 かとう助産院 星野助産所 マザーズ・プレイス	
自己学習の内容/時間	事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために自己練習に励んでほしい。常に社会情勢に関心を持ち深めることに努めてほしい。		
評価の方法	評価表に基づく評価		